

「社会における企業： JFBSが目指すこと」



一橋大学大学院商学研究科
谷本 寛治

2011.5.20

JFBSとは

■ 目的

- * 企業と社会の関係をめぐる諸課題について、学界、産業界、行政、労働界、消費者団体、NPO/NGOなどとの幅広い連携を形成し、世界的な政策・理論動向に注視しながら、理論と現場と政策をつなぐ場をつくり、また欧米諸国およびアジア太平洋諸国と日本をつないで学際的に議論・研究することを目的とする
- * この分野におけるJapanの組織→連携を広げる
国内外の関連諸組織と連携しながら、新しい知のネットワークを創っていくことを目指す (NOE: network of excellence)

■ これまでの経緯

谷本研究室では、2009年3月から学界、企業、行政、NGO等から28名のメンバーが集まり、FBS（第1期）を開催してきた。2年間で9回の研究会と、2010年11月 APABIS東京カンファレンスの開催協力（メンバー3人が登壇）を行った。この経験を踏まえ、2011年からFBSをオープンな学会に発展させることとした。

JFBSとは：主な活動内容

- ✓ 年次大会：基調講演、報告（統一論題、自由論題）
- ✓ 研究会、シンポジウム：議論を中心に
- ✓ 年報の発行：年次大会の統一論題テーマを中心に（最新論考や国内外の諸動向等を掲載） 学会誌の発行：研究論文中心に（年刊）
- ✓ 国内外の関係機関と連携：会議・シンポの共催・参加、共同研究等
- ✓ ウェブサイトによる情報発信：活動情報の提供
- ✓ 企業教育プログラム提供：企業担当責任者研修プログラム等
- ✓ 研究助成プログラム（若手研究者支援）

JFBSとは：国内外組織との連携状況

- (E)ABIS ((European) Academy of Business in Society) *--affiliated*
- APABIS (Asia Pacific Academy of Business in Society)
- United Nations University
- Humboldt University, International CSR Conferences
- Berlin Free University, East Asian Studies
- Wollongong University, Center for Research in Socially Responsible Marketing (Australia)
- INWENT (Internationale Weiterbildung und Entwicklung), Germany
- Hope Institute (Korea)
- Community Business Center (Korea)
- British Council (Japan)
- CBCC (公益社団法人企業市民協議会)
- グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク
- ジャパン・コーポレートガバナンス・フォーラム

「“社会における企業”という視点」

Perspective for “Business in Society”

論 点：グローバルな潮流

- 90年代以降、持続可能な発展（経済、社会、環境）が求められる
 - ・この時代潮流の中、企業の役割・責任が問い直され、グローバルにCSR が議論される

- 持続可能な社会経済システム／企業を構築していくために
 - 企業経営レベル、同時に、マクロレベルから政策を考える必要
 - ・CSRについては、これまでビジネス界が議論をリードしてきた
 - ・政府・労組・消費者団体・NPO/NGOによる/との議論を深める必要

- 市場社会の変化、企業観の変化
 - ・E、S、Gを考慮/評価する市場への変化
 - ・変化のスピードは遅いが少しずつ
 - ・「市場」概念の変化
 - ・企業は社会の中で存在する、企業はステイクホルダーから支持され、信頼されて存在する→ 新たなガバナンス・システムのあり方

論 点：国内の潮流

- 2000年代に入って以降
企業の役割・責任が問い直され、CSR が議論された（70年代との違い）
 - ・2005年頃～CSR制度化の急速な進展 → 定着（?）
 - ・「本業を通したCSR」論の危うさ（?）

- 金融危機（2008）、景気後退期における状況
 - ・基本的姿勢は変わっていないという理解
 - 持続可能なシステムづくり、環境、安全・安心を求める動きに後戻りはない
 - 責任ある企業行動、持続可能なビジネスモデルの必要性の再確認

- 震災復興における企業の役割、改めて問われる（阪神大震災時の経験を超えて）
 - ・多くの企業が、本業を通して／社会貢献活動として、積極的に関与
 - 企業は社会の中でしか存在しない
 - 企業は誰のために、何のために存在するのか

持続可能な社会の構築：政策課題

■ ミクロレベルでの課題

- ・企業レベルにおけるCSR経営の取り組み（経営プロセスへの組み込み）
- ・市民の社会的課題への関心（個々の市場行動の影響力）

■ マクロレベルでの課題

- ・持続可能な社会経済システムを構築していくための環境整備
産業政策への位置づけ：法規制（ハード/ソフト）/緩和、調達基準、助成、教育、中小企業対策
- ・グローバルガバナンスのあり方の変化
「安全・安心で持続可能な未来のための社会的責任に関する円卓会議」（2009-2010年度）の経験と次への期待

■ インターミディアリーレベルでの課題

- ・CSRで問われている社会的課題への取り組み＝各SHの課題
- ・企業－政府－CSOのコラボレーション
（セクターをつなぐ仕組みづくり）

「研究領域・方法」

Research Field and Approach

企業と社会という問題領域

■ 議論し研究していく対象領域(例)

- ・企業と社会の関係、持続可能な発展、公共政策
- ・CSR経営、コーポレート・ガバナンス、経営倫理、環境会計
- ・環境経営、環境保全、消費者、安全・衛生、労働・人権、社会貢献
- ・ステイクホルダー・エンゲージメント、情報開示/報告書、CSR教育
- ・企業価値、レピュテーション、SRI
- ・NPO/NGO、セクター間の協働/提携、国際支援
- ・マルチ・ステイクホルダー・プロセス、グローバル・ガバナンス、国際基準
- ・ソーシャルビジネス、社会的企業(家)、ソーシャル・イノベーション
- ・国際比較

■ 研究方法

経営学、経済学、政治学、社会学...

→ガバナンス、戦略、人事、会計、生産、マーケティング等

→さらにそれぞれに分析視点・枠組み

企業と社会という問題領域

Business & Society Business in Society

- 企業と社会、社会における企業、という問題設定、CSR
- どういう視点／枠組みから議論・研究するのか
 - ・研究のディシプリン
 - ・周辺領域からの参入
 - ・インター (トランス) ディシプリナリーな枠組み
 - ・メインストリームのビジネス研究/教育領域に組み入れていくこと
- これまでこの領域の研究者はなぜ少ないか？「科学と社会」
学問と社会的・政治的要請
 - これまで日本企業に求められていた役割・責任(主に雇用、配分)
 - 今求められるCSRとの違い(主に社会的・環境的課題)
- 欧米の主要大学/ビジネススクールで新たな研究機関の設置
2000年代～

Academy of Business in Society



- alliance of companies, business schools and academic institutions, with the support of the EC, committed to integrating business in society issues into business theory and practice.
established by these 15 organizations in 2002

10th EABIS 2011 Colloquium

“A new era for development: The changing role & responsibilities of business in developing countries”

26-28 October 2011, INSEAD, Fontainebleau, France

9th : Corporate Responsibility and Emerging Markets, St. Petersburg, Russia

8th : The Role of Business in Society: Challenges and Issues for Global and Corporate Governance, Barcelona, Spain

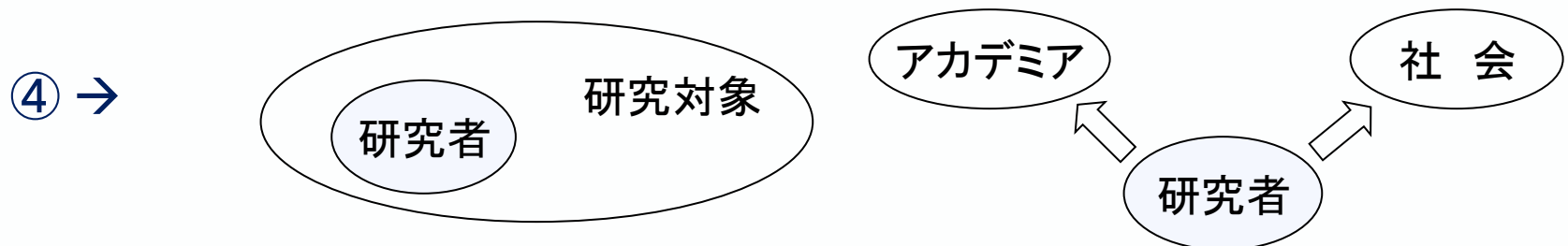
7th : Corporate Responsibility and Sustainability: Leadership and Organizational Change, Cranfield, UK

「研究の立ち位置と期待」

Research Standpoint and Expectation

研究者の立場

	研究者	現場/社会との関係
①	欧米の理論の輸入→学説研究・解釈	啓蒙
②	欧米の理論枠組み→日本の企業社会の分析	調査対象
③	日本の現場でのフィールドワーク→理論構築	//
④	現場の課題に共に取り組む(研究と現場)	協働 (企業、政府、NPO/NGO)



今後の期待

- ✓「よい理論ほど実際に役立つものはない」
Nothing is so practical as a good theory (K. Lewin). 実践的とは？
- ✓ JFBSは、研究者と実務家が、企業と社会にかかわる諸問題について議論し交流する場＝プラットフォーム

いま企業・社会が抱えている課題を明らかにし、新たな方向性を探る
- ✓ 受け身で「聞く」のではなく、自ら参加し議論する
→ 対話・議論を通して、いまの自らの立場・発想の
限界と新たな可能性を自ら知ること
学ぶこと = 変わること... 変えること